

大津港活性化・再整備実施計画について

1 大津港活性化・再整備実施計画の概要

位置づけ	大津港活性化・再整備基本構想(R7.3策定)に基づき、 <u>ソフト事業・ハード整備を誰がどのように取り組んでいくかを具体化するもの</u> 官民連携のもと、大津市のまちづくりに係る取組や民間事業者との取組とも整合し、相乗効果を目指す スケジュールは、取り組む内容を今後3・5・10年の3段階で規定
対象範囲	大津港をヒト・コト・モノの結節点および琵琶湖の玄関口ととらえ、 <u>大津港のみならず、周辺地域や琵琶湖・他地域エリアも含むものとする</u>
ターゲット層	<u>周辺住民のみならず、国内・海外旅行者を広く呼び込むことを目指す</u>



現在の大津港



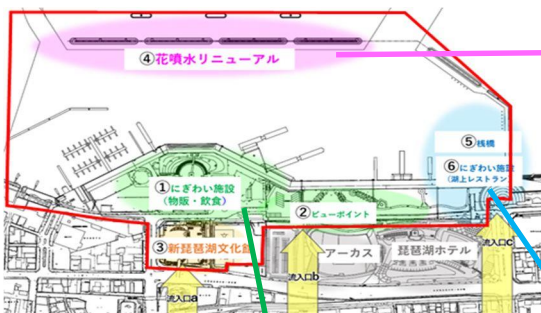
現在の大津港(ターミナルビル付近)

2 実施計画の検討状況について

- 検討会※にて、大津港周辺のにぎわいづくりに向けたハード整備やソフト事業について議論

※国・県・市の関係部署、関係事業者、商工会議所、観光協会、自治会、学識経験者等

- 第1回:令和7年 5月27日 基本構想を踏まえた実施計画策定の進め方等について議論
第2回:令和7年10月31日 実施計画(骨子案)、港湾施設の整備イメージ等について議論
第3回:令和8年 2月10日 実施計画(素案)について議論、実施計画(原案)策定に向けた意見募集



にぎわい施設
(事例:ONOMICHI U2)



湖上レストランの誘致イメージ

琵琶湖ホテル前棧橋の機能強化

- 第4回検討会に向け、実施計画(原案)の内容等について調整を進める中で、検討会メンバーより、「大津港だけでなく、大津市や地元が行う周辺エリア活性化の動きと連動した計画にすべき」との意見があった。
- これを受けて、県として、周辺エリアで現在進行中の県立施設再編・整備の動向と整合を図るために、広域的な視点を含め更なる検討を行うこととした。

3. 大津港周辺エリア活性化と連動した実施計画の検討について

- 第4回検討会:令和8年7月17日 ～事業の意義を改めて確認
 - 大津港を滋賀の魅力発信拠点、にぎわい拠点として整備する
 - 「県外から大津港へ」「大津港から県内各地へ」人流を生み、にぎわいを県内各地に波及させる
 - 『周辺エリア活性化の核』、『滋賀・琵琶湖を訪れる人の結節点』を目指す
 - これらの方針を具現化するためのゾーニングを実施、施設の配置を行うことで活性化を図る

4. 今後の予定

- 検討会の意見を踏まえて、実施計画(原案)の作成を進めてまいりたい。

大津港活性化・再整備事業の目的・意義

◎大津港の価値向上

◎大津港周辺エリアとの繋がり強化



滋賀県にとっての大津港

滋賀・琵琶湖を訪れる人の結節点

好アクセスの県庁所在地中心地＝県を代表するコンテンツの集約・アクセス拠点

地域にとっての大津港

周辺エリア活性化の核

地域外の来訪者（京阪神・国内・インバウンド）によるにぎわい

地域住民・沿線利用者（子育て世代・学生等）の日常使い・憩い

大津港周辺エリアの課題

課題1：観光地および大津/滋賀の「顔」としての印象アップ・コンテンツ集約

✓大津・滋賀を代表する場所

大津の中心街であり、滋賀県の代表的な商業地・観光地としての認知を高める必要がある
湖上観光拠点ではあるものの、それ以外の「大津」「滋賀」「琵琶湖」のコンテンツについて発信不足

✓観光地としての雰囲気づくり

エリア全体で観光地としての雰囲気づくりや大津港・湖岸への誘導導線が必要

課題2：エリア内外からの人流創出

✓エリア外からの人流

広域圏（京阪神・国内・海外）からの人流が不足
また、近隣地域のオーバーツーリズムの緩和の観点からもインバウンド客等の取り込みが課題

✓周辺エリア・近隣地域からの人流

沿線利用者や近隣幹線道路利用者が多数いるにもかかわらず、単なる通過点となっており、平日を含めた恒常的なにぎわいにつながない

取組方針

- ・琵琶湖観光、歴史文化、ビワイチ、食・物産など「大津」「滋賀」「琵琶湖」のコンテンツを大津港に集約して、県の魅力を総合的に発信する中核拠点とする。
- ・立地（京阪神からの近さ、交通手段の集積）を生かし、「県外から大津港へ」「大津港から県内各地へ」という人流を生むことを目指す。
- ・ＪＲ大津駅から湖岸へ至る市街地やなぎさ公園など周辺エリアと連携・調和したにぎわいづくりを行い、地域からも日常的に利用される大津港を目指す。

大津港の価値向上（コンテンツ・位置づけ等）

- 琵琶湖のシンボリック港湾として、**インバウンド・観光ニーズの多様化に対応**、維持管理的な港湾空間から、**県の魅力を総合的に発信する中核拠点**へ再定義。
- **滞在／回遊型に転換し、文化・スポーツ・食を統合した「広域ゲートウェイ」を構築**、にぎわいを県内全域へ波及させ、地域経済の好循環を創出。
- 日常利用と観光利用が共存し、地元から県外・海外まで、多種多様な利用者の**目的地となる、にぎわいのある持続可能な都市空間を官民連携で実現**。

大津港を滋賀の魅力発信拠点、にぎわい拠点として整備

- ① 琵琶湖観光** 
- ✓ 開放的でスケール感のある湖上空間、非日常体験
 - ✓ 市内観光スポット、県内他港湾へのアクセス・周遊

- ② 文化・歴史** 
- ✓ 新琵琶湖文化館(R9.12開館)等の文化観光案内拠点
 - ✓ 文化・歴史コンテンツ(平安文学・戦国遺構・近江商人・湖国生活文化・仏像等)の活用

- ③ ビワイチ** 
- ✓ 琵琶湖や県内各地の景色の変化を楽しむアクティビティ体験
 - ✓ ライトユーザーも取り込むブランド戦略・環境づくり
 - ✓ 観光情報発信による目的地づくり

- ④ 食と物産** 
- ✓ 滋賀ならではの食(近江牛、鮎ずし、ビワマス、うなぎ、近江茶など)、物産(信楽焼、滋賀関連キャラクターグッズ等)
 - ✓ 中～高価格帯のパン屋など観光と日常の両面使い

歴史文化資源への関心を高め周遊に繋げる

歴史や文化を、食や土産でも体感し、満足度を向上

食、物販、体験がサイクリストを魅了し、立寄りを促進

サイクリストが湖上観光も楽しみ、滞在時間を拡大

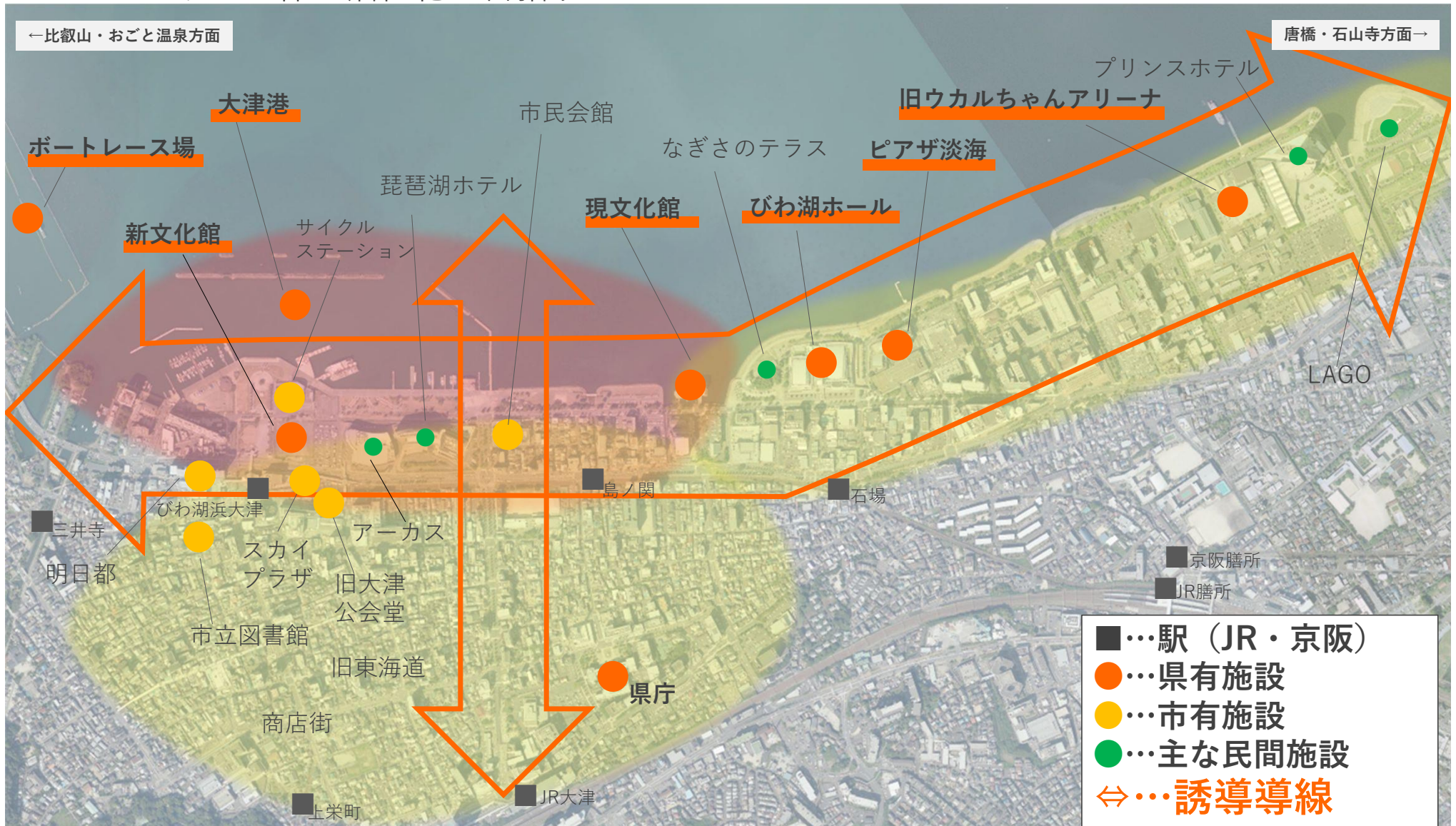
大津港の価値向上（コンテンツ・位置づけ等）

- 県内で最も**広域圏（京阪神・国内・海外）からのアクセス**が良い立地
- 「大津港活性化・再整備」を起点に、**一港湾の再整備や特定の市街地エリアの活性化にとどまらない、県域への人流・にぎわいの波及を目指す**



大津港周辺エリアとの繋がり強化

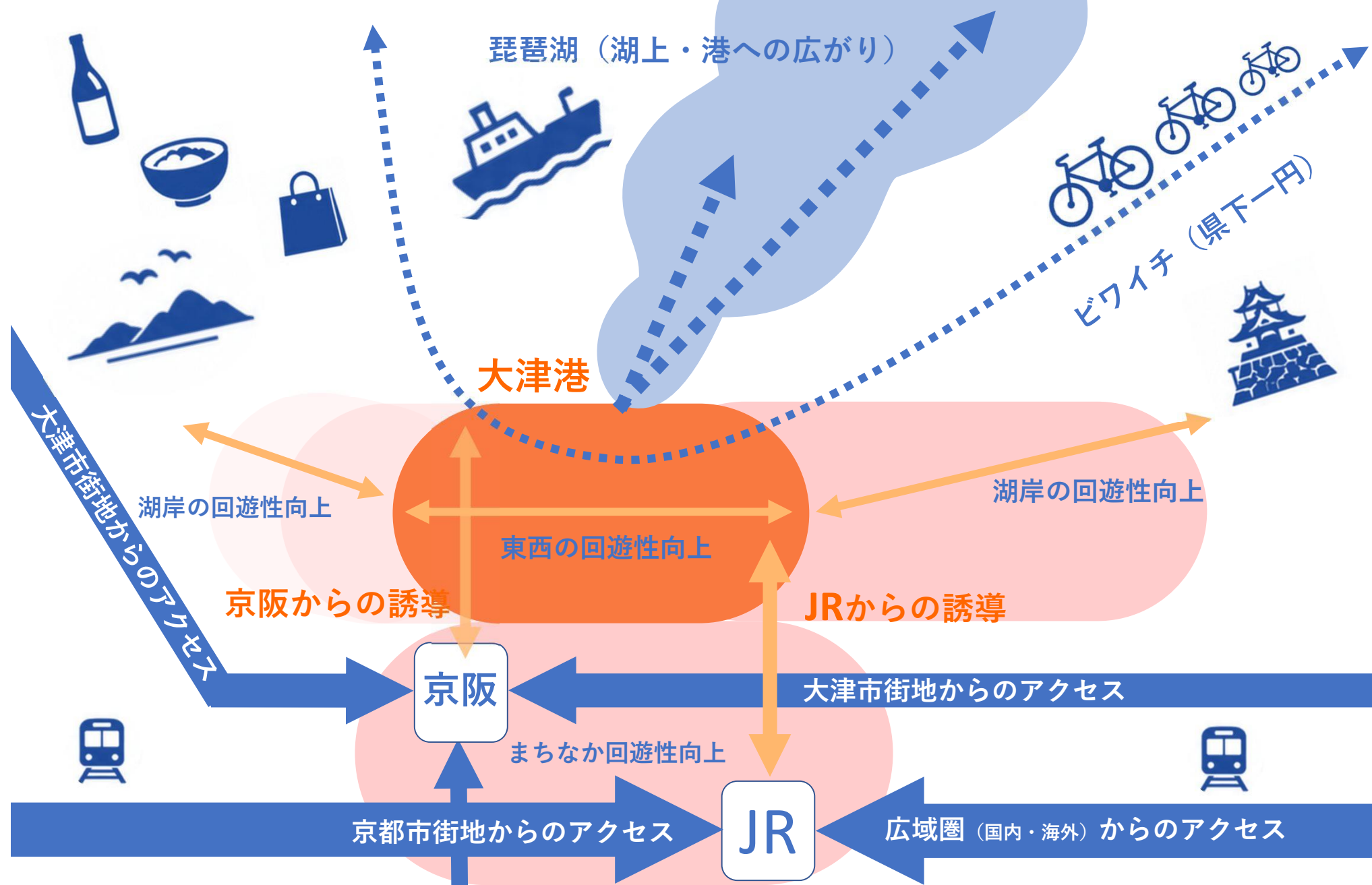
- 大津市と連携して、大津港近隣に位置する各拠点の整備、湖岸方面へのアクセス向上によるエリア全体の活性化を目指す



大津港活性化・再整備の意義

令和8年7月17日 大津港活性化・再整備
検討会（第4回）資料より抜粋

～『周辺エリア活性化の核』『滋賀・琵琶湖を訪れる人の結節点』として整備～



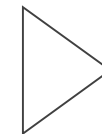
大津港の課題と再整備にあたっての対応方針

課題1：目的地性と滞在価値・コンテンツの不足

- ✓ コンテンツや憩いの空間としての魅力が不足しており、閑散としている。
- ✓ 「何をしに来るのか」「どれだけ楽しめるか」が明確ではなく、目的地として選ばれていない。
- ✓ 琵琶湖を感じる空間、快適に滞在できる環境が不足している。

対応方針1

- ・「わくわく」が途切れないゾーニングの実施
- ・「大津港に行きたい！」と思える魅力あるコンテンツの配置



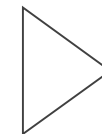
10

課題2：施設内・周辺エリアの回遊性と連続性の欠如

- ✓ 物理的・心理的な隔たりにより、点在する施設が一体的に機能していない。
- ✓ 駅から大津港エリア全体の人流に課題があり、連続的な動線や、体験機会がない。

対応方針2

- ・「歩いて楽しい」大津港の実現
- ・駅からのアクセス改善による「ウェルカム感」の演出



11

「わくわく」が途切れない
ゾーニングの実施

- ・ ウェルカムゾーンで迎え、次のゾーン・目的地へ自然と足が向く回遊動線を設計。駅からの入口から水辺まで一続きの体験としてつなぐ配置とする
- ・ 初めて琵琶湖を訪れる人、日常的に大津港に触れる人それぞれにとっての「わくわくする」居場所を提供

「大津港に行きたい！」と思える
魅力あるコンテンツの配置

- ・ 滋賀の「食」が集まり、「文化・歴史」を体感でき、「自然・健康」を五感で楽しむことができるコンテンツを導入
- ・ 「びわこ花噴水」や係留施設の改修を通じ、滋賀・琵琶湖のゲートウェイとしての魅力を向上
- ・ 「みなと緑地PPP」を活用、民間の収益施設による整備を促進

花噴水（リニューアル）

滋賀・琵琶湖のゲートウェイとしての魅力向上

アクティビティゾーン

湖上レストラン等、琵琶湖ならではの体験や、身体を使ったアクティビティ・体験ができるコンテンツなど、新しい価値を導入するゾーン。

にぎわいゾーン

京阪びわ湖浜大津駅と直結し、旅客ターミナル等主要機能が集積する場所。幅広い規模のイベントへの受け皿整備と、にぎわいの中核的な施設整備を行うゾーン。

くつろぎゾーン

日常は地域住民の憩いの場となり、イベント時にはにぎわいや交流の場へと柔軟に姿を変える空間。

ウェルカムゾーン

京阪びわ湖浜大津駅からの入口。周辺エリアと統一したサイン計画により、大津港への回遊の起点とする。

ウェルカムゾーン

JR大津駅からの入口。周辺エリアと統一したサイン計画により、大津港への回遊の起点とする。

▼びわ湖浜大津駅

▼JR大津駅

「歩いて楽しい」大津港の実現

- ・歩車分離・幅広いメインルートの配置
- ・複数の視点場設置による琵琶湖眺望の確保
- ・周辺エリアを含めた統一的なサイン表示

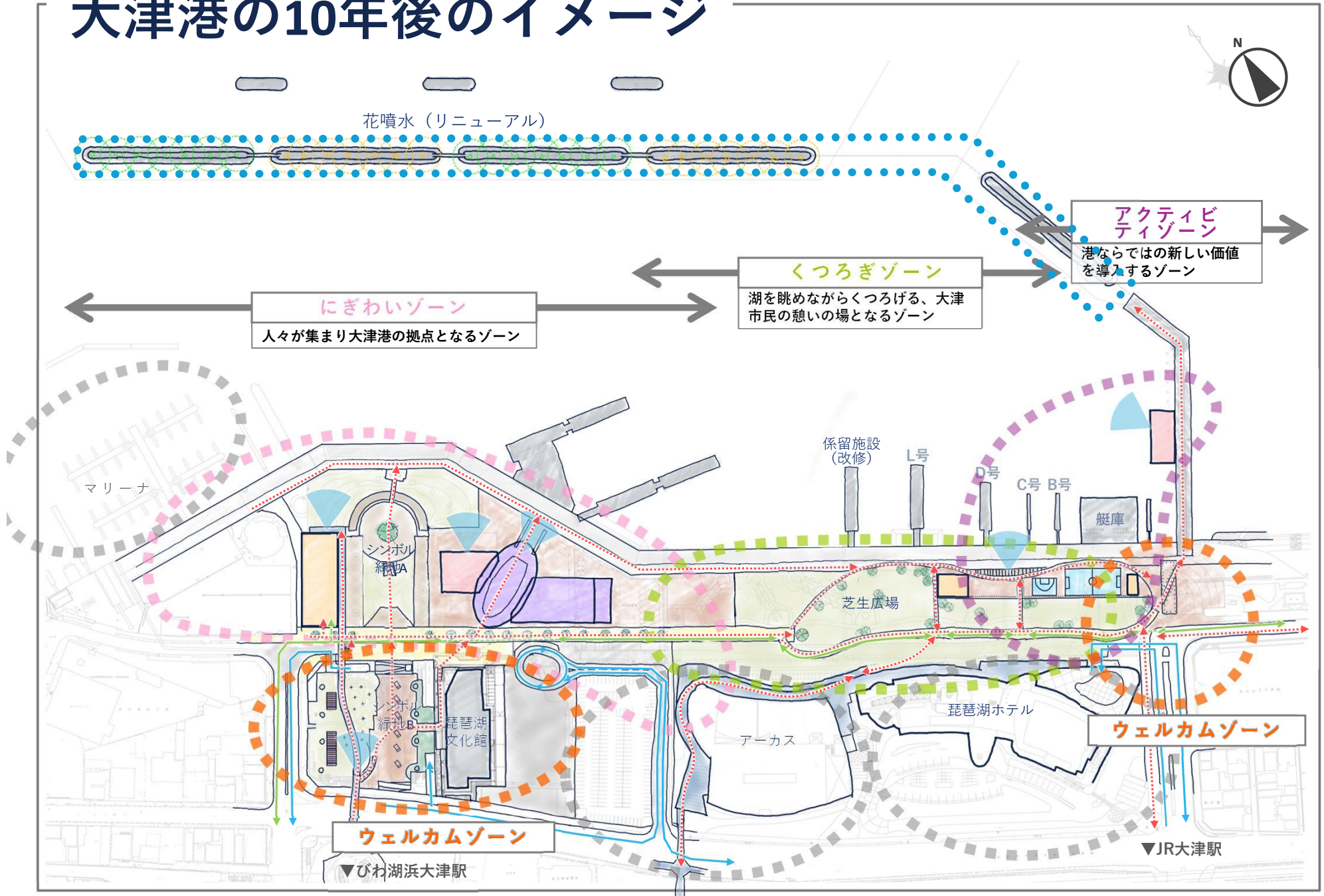
駅からのアクセス改善による
「ウェルカム感」の演出

- ・大津市、地元と連携したJR大津駅からのアクセス改善検討
- ・デッキ延伸による京阪びわ湖浜大津駅からの大津港にぎわいゾーン・湖岸方面へのアクセス性の向上



※本資料の計画はイメージであり、今後の詳細検討により、配置・規模等の内容は変更の可能性がある。

大津港の10年後のイメージ



※本資料の計画はイメージであり、今後の詳細検討により、配置・規模等の内容は変更の可能性がある。